

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属		記入年月日	令和 年 月 日
氏名		記入年月日	令和 年 月 日

キャリア・ライフステージ	実践力の充実期
年齢・教職経験年数(目安)	33歳～37歳 ・ 11～15年
目指す教員像	学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。
岩手の基本研修	中堅教諭等資質向上研修(11年目)

資質向上に関する指標		自己評価	
		4～1を記入※	
		4月時点	〇月時点
1 教員としての素養			
自ら学び続ける意欲・探究心 ①	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。		
使命感、責任感、倫理観 ②	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。		
教育的愛情、人権意識 ③	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。		
豊かな人間性 ④	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。		
コミュニケーション力 ⑤	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。		
課題に立ち向かう力 ⑥	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。		
2 学習指導力			
カリキュラム・マネジメント ⑦	・教育課程の編成・実施・評価・改善を主体的に進めながら、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って学習指導を実践し、若手教員に模範を示している。		
教科教育等の専門性 ⑧	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究や教材開発を実践し、若手教員に模範を示している。		
確かな学力を育む授業 ⑨	・児童生徒の発達段階や多様性を踏まえて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業実現の観点から、積極的に研究授業の授業者を務めるなど、若手教員に模範を示している。		
3 生徒指導力			
発達支持的生徒指導 ⑩	・養護教諭など様々な立場の同僚との連携のもと、多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。		
いじめ等の問題行動・不登校等への対応 ⑪	・校内での研修や情報共有に主体的に取り組み、若手教員のスキル向上を支援しながら、いじめ等の問題行動・不登校等に関する学校の対応力向上に取り組んでいる。		
教育相談 ⑫	・実践を通してカウンセリングマインドを身に付け、教育活動や保護者面談等に教育相談的配慮を生かしている。		
4 マネジメント力			
学校組織における連携・協働 ⑬	・幅広い分掌の経験に基づいて、学校全体の動きを見通し、建設的な提言をしながら業務を推進している。		
危機管理 ⑭	・児童生徒集団に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。		
関係者等との連携・協働 ⑮	・関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報共有を図り、教育活動に生かしている。		
5 復興教育の視点 ⑯			
・地域の実情・課題に応じて、児童生徒が、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わりながら、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。			
6 キャリア教育の視点 ⑰			
・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら、キャリア教育を展開している。 ・児童生徒の主体的な進路選択に資するよう、ライフデザイン能力の育成を図っている。			
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点			
特別支援教育 ⑱	・校内支援体制構築の必要性を理解し、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働に主体的に取り組んでいる。		
多様性への配慮 ⑲	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持ちながら、学習上・生活上の支援に向けて組織的に取り組んでいる。		
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点			
⑳	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。		
	㉑	・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。	

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等

